

足立区議会 自由民主党

討論者



た だ 郎
た だ 委 員

本予算はボトルネック的課題への取り組みを進化・充実し、厳しい財政状況下でも子どもの貧困対策、6つ目の大学進出や区内初の大病院誘致等を着実に進める区長の強い思いが込められたものとなった。

子ども施策は、妊娠前から切れ目のない母子健康事業の推進、平成30年までの待機児ゼロ、保育施設の整備や人材の確保・定着対策、学習支援の充実や教員の授業力アップ等々、くらし施策は、地域コミュニティの活性化、介護予防施策、糖尿病予防、産学連携促進事業、治安対策等の更なる推進、まちづくり施策は、竹ノ塚駅付近鉄道高架化事業の促進、防災・減災事業の充実、区営住宅の集約化等を図った。このような区の取り組みに対し、一定の評価をする。歳入面では、収納率向上対策強化、未利

用地の有効活用、自主財源の確保や、今ある仕組みと地域とのつながり、人的資源等の活用を図り、新基本構想の「協創」の精神を持ち、夢と希望にあふれる足立区の未来に向かって取り組むよう要望する。

また、避難所の医薬品備蓄、地下鉄8号線区内延伸、北綾瀬駅改良工事、六町土地区画整理、綾瀬エリアデザイン計画、土づくりの里上部空間整備、総合交通計画、保育士確保、子どもの居場所づくり、不登校対策、文化財の活用、春の花火の復活や、国勢調査での郵便配達員への協力要請、さらに、庁舎内での特定政党を支持するような掲示物等、区民に誤解を与えないよう規則を厳守すること等の要望・提案を尊重し、その実現に努力されるよう強く求める。

なお、共産党から出された修正案は、子どもの学力向上施策の一部中止等、到底賛成できるものではない。

最後に、予算の執行でも、議会との信頼関係を損なうことのないよう強く求める。

足立区議会 公明党

討論者



た が た 直 昭
た が 委 員

平成28年度一般会計の総額は2千730億円で対前年度比56億円の増額予算となり、過去最大の予算規模となった。今後も、施設更新の関連費用や社会保障経費等を中心に、経費の増大が見込まれ、より一層の自主財源の安定確保に努めなくてはならない。

子ども施策では、学力向上や体験学習の充実をはじめ、ASMAP推進事業等が盛り込まれており、子どもの貧困対策は、早期かつきめ細やかな施策を全庁挙げて取り組まれない。待機児童ゼロに向け、保育人材の確保や定着等の支援策も要望する。

くらし施策では、地域包括ケアシステム構築の取り組み、区内経済の活性化や、治安・美化等、様々な諸課題に対し、安心して住み続けられるまちづくりの予算となっている。今後も、区民の健康を守り、健康

長寿社会の基盤ができるよう引き続き、糖尿病対策や認知症対策等の推進を要望する。まちづくり施策では、災害に強い安全・安心なまちづくりの取り組み、竹ノ塚駅付近鉄道高架化等の推進、エリアデザインは、江北エリアの東京女子医大東医療センターや花畑エリアの文教大学移転準備をはじめ、各地域での魅力を創出したまちづくりに取り組まれない。

経営改革施策では、区民サービス向上と職員の資質向上への取り組みに期待する。

また、今後30年を見据えた将来像を示す新たな基本構想の答申が、区長へ出された。足立の未来に、安心の確かな道すじをつける年として区政運営を進めていただきたい。なお、共産党提出の修正案は、今後の中長期的な区政運営を考慮した案とは言えず、到底賛成できるものではない。

最後に、我が党委員の指摘事項及び提案や要望については、新年度予算の執行や区政運営に反映させるよう強く求める。

特別 予算 委員会の 討論(要旨)

区分	足立区議会 自由民主党		足立区議会 公明党		日本共産党 足立区議団		足立区議会 民主	
	原案	修正案	原案	修正案	原案	修正案	原案	修正案
一 般 会 計	賛 成	反 対	賛 成	反 対	反 対	賛 成	賛 成	反 対
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	賛 成	反 対	賛 成	反 対	反 対	賛 成	賛 成	反 対
介 護 保 険 特 別 会 計	賛 成	反 対	賛 成	反 対	賛 成	賛 成	賛 成	反 対
後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計	賛 成	—	賛 成	—	反 対	—	賛 成	—
一 般 会 計 補 正 予 算 (第 1 号)	賛 成	—	賛 成	—	賛 成	—	賛 成	—



予算特別委員会委員(23名)

- 委員長 / ○副委員長
- 前野 剛 委員
- 針谷 和男 委員
- 長澤 興祐 委員
- 伊藤 太也 委員
- たけだ 哲也 委員
- 工藤 信男 委員
- 馬場 茂男 委員
- 吉岡 裕 委員
- 大下 裕 委員
- さの 智恵子 委員
- 佐々木 まさひこ 委員
- 岡安 たかし 委員
- 長井 まさのり 委員
- たが 直昭 委員
- 山本 ちえ子 委員
- 浅井 けい子 委員
- 鈴木 けんいち 委員
- おぐら 修平 委員
- おぐら 修平 委員
- 松川 修平 委員
- 市丸 修平 委員

日本共産党 足立区議団

討論者



針 谷 み き お
針 谷 委 員

区民生活をめぐる状況は、4年連続で実質賃金がマイナスとなる一方で、社会保険料等の負担増が生活を圧迫していることが明らかとなり、住民福祉の向上を本旨とする地方自治体の責務を果たす上で姿勢を疑わざるを得ない問題が浮き彫りになった。

第一に、区民生活向上対策にも背を向けた姿勢である。我が党は予算修正案を提出したが、保育料の低所得者世帯の軽減、介護利用料の一部負担軽減策等、全部実施しても、区長提案の予算総額より1億円減額して実現できるものである。

第二に、税金のむだ遣いである。戸籍の外部委託では、戸籍法違反、労働法令違反を重ねた富士ゼロックスシステムサービスが再契約となり、国保では、社会的信用失墜行為で競争入札を指名停止と

なった事業者が委託を受けるという事態は、前代未聞で到底認められない。税金のむだ遣いと大企業優遇を指摘せざるを得ない。

第三に、切実な区民の声を傾けず、強引に物事を進める独走の姿勢である。区民が不安に思う放射能汚染対策は行わず、税金を投入しながら大型民間マンション建設を進める特定企業優遇の再開発事業、拠点校を設けず実施しようとする特別支援教室の配置等は見直すべきである。

第四に、区民サービスの低下に繋がりがちな重大な姿勢も問題となった。学童保育の人材確保、深刻な保育士不足や、不登校や虐待が増える要因の一つに教員の多忙化を指摘され、解消が迫られている。

国民健康保険特別会計は保険料の16年連続値上げ、後期高齢者医療特別会計も前期に続く連続の保険料値上げで反対である。暮らしと平和、個人の尊厳を守り発展させるため、区が住民に寄り添った区政運営に転換されることを求める。

足立区議会 民主党

討論者



お ぐ ら 修 平
お ぐ ら 委 員

平成28年度予算は「未来へ。確かな道すじを」と銘打ち、4つのボトルネック的課題の克服に注力する「磨く」と、区の可能性や魅力を最大限引き出していく「創る」という2方向からのアプローチを基本的に踏襲していく方針のもと、示された。

主要施策を見ると、ハード面では、大学や大病院の進出に関する施策、竹ノ塚駅付近鉄道高架化事業、六町・綾瀬エリアデザイン、ソフト面では子どもの貧困対策実施計画の実施に向け、放課後の居場所づくり、ひとり親家庭対策の充実、妊娠期から貧困に陥るリスクの早期発見等が示された。

実施には財源の裏付けが必要だが、当区は依然、厳しい財政状況であり、財政調整交付金に依存せざるを得ない状況である。新年度予算には区債残高の減少と基金の

積み増しによる改善は図られたが、独自の歳入確保、事業の選択と集中の徹底や事務事業の効率化、医療・介護・子どもの貧困等、様々な予防対策の強化、不納欠損や収入未済額の改善の強化を求める。

区の人口推計では30年後の高齢者人口は約20万人、85歳以上を占める割合が2割になると想定され、人口構造変化への対応も急務であり、区民生活負担増となり、さらなる困窮を生みださないよう十分に配慮しなければならぬ。

基本構想審議会の答申の通り、多様性を認め合い、多様な世代と繋がり支えあえること、経済的な事情にかかわらず、子どもが心身ともに健やかに成長するために、保護者や子どもが孤立することのないよう、地域や学校との連携、切れ目のない社会の構築を図るよう求める。

以上、本委員会での質疑内容を十分考慮し、区民生活向上のために予算を執行されるよう要望する。